

開館二十周年記念誌

二十年の
彩り



京都市学校歴史博物館

以下の記述が抜けておりました。関係者には謹んでお詫び申し上げます。

25 ページ

■「学童集団疎開の記憶」のところ

- ・記念講演会「学童集団疎開の記憶」 8月28日
山嵯泰正（説話・伝承学会会員／京都地名研究会常任理事）
- ・記念講演会「西陣空襲被害を体験して」 9月11日
磯崎幸典（西陣空襲の語り部）

26 ページ

■「林業のまち 京北の文化と小学校」のところ

- ・記念講演会「京北ってこんなまち ～歴史・文化・産業から～」 3月12日
西山隆史（前京北町教育長）



はじめに

祖母松園が当館の前身である開智小学校に通っていたという縁もあり館長を務めて13年になる。

その京都市学校歴史博物館が開館して20年を迎える。

当館は、京都の教育の歴史は勿論、京都の教育を支えてきた町衆の情熱を次世代に伝えていくという大きな役割を担い平成10年11月に開設された。

このたび、当館がめでたく成人式を迎えるにあたり、企画展を中心に20年の歴史を振り返る冊子「20年の彩り」を発行することとなった。

20年の歳月が経とうとしており、当館の展示に関する記録がすべて詳細に残っているわけではないが、こうして改めて見直すと、先人の教育に対する情熱や、現在、京都市教育委員会でも取り組んでいる、親と地域が教師と一緒に参画する京都式のコミュニティスクールが番組小学校設立当初から形を成していたことに感動を覚える。

この冊子を通じて「まちづくりは人づくりから」という京都の教育の原点に触れていただければ幸いである。

京都市学校歴史博物館館長 上村 淳之



ごあいさつ

京都市教育長 在 田 正 秀

京都市学校歴史博物館は、「京都は我が国の近代学校教育の発祥地」「番組小学校はまちづくりを考える原点」「学校を支えた地域社会」の3つの基本コンセプトのもと、平成10年11月に開館しました。京都の教育の歴史と、学校の創設・経営に尽くされた町衆の情熱を、数多くの学校文化財や歴史資料によって明らかにし、後世に伝えるとともに、市民の生涯学習や子どもたちの学習活動に役立てる施設として歩み、本年度開館20周年を迎えます。

同時に、本年は明治改元から満150年の節目の年でもあります。

明治維新後の東京^{てん}奠都が京都の人々に与えた衝撃は、筆舌に尽くし難いものがありました。しかしながら、当時の京都の人々は、怯むことなく様々な近代化政策を全国に先駆けて実施し、大変革の時期を乗り切るだけでなく、京都を以前にも増して素晴らしいまちへと創造していきました。

その最初の試みが番組小学校の創設でした。

明治2年という変革期、都の地位を失い、人口の3分の1が減少するなど、大きな危機に直面する時期に、64もの学区制小学校を全国に先駆けて創設した町衆の偉業は、現代に生きる我々京都市民にとっても大いに誇りとすべきところでもあります。

番組小学校創設以降も、日本で初となる幼稚園「幼稚遊嬉場」、盲ろう学校「京都盲啞院」（現・府立盲学校、府立聾学校）、公立絵画専門学校「京都府画学校」（現・市立銅駝美術工芸高校、市立芸術大学）、公立商業学校「京都府商業学校」（現・市立西京高校）、組合立工業学校「京都染工講習所」（現・市立京都工学院高校）、公立高等女学校「京都府高等女学校」（現・府立鴨沂高校）が誕生するなど、京都は我が国の教育を先導してきました。

こうした京都が誇るべき理念を守り育ててきた地域の絆を、本書を通じ少しでも感じていただければと思います。願わくば本書の発刊を機に、新時代を切り拓いた明治の町衆の情熱と英知、地域と学校がともに育ててきた人づくりの系譜を多くの方々に知っていただければ幸いです。

目次

平成10 (1998) 年度	
自治100周年事業 開館記念特別展	自治の原点 ～番組小学校発展の源をさぐる …… 6
企画展	新春 美術品の展示 …… 6
企画展	春を迎える 上巳の節句 …… 6
平成11 (1999) 年度	
春の特別展	花 咲き誇り ― 学校を彩る名品の展示 ― …… 7
企画展	明治の学校の教え …… 7
開館1周年記念事業 秋の特別展	日本のこころとすがた …… 7
企画展	京のしわすと暮色 …… 8
春の特別展	京都市に編入された郡部 葛野・愛宕・紀伊・宇治の学校名品 …… 8
平成12 (2000) 年度	
企画展	学校のたからもの 文化功労者たちの京焼を中心に …… 9
館外展示京都市美術館別館開館記念	学校のたからもの 京都市立学校所蔵の名品展 …… 9
企画展	祇園祭と明倫尋常小学校 …… 9
企画展	学校文化財 選ばれた逸品 …… 10
特別展	石門心学と番組小学校 …… 10
企画展	町衆の享受した文化財 ― 学校に寄せる想い ― …… 10
企画展	教科書で学んだ ― 懐かしい歴史上の人物 ― …… 10
特別展	西陣地域の学校文化財 その美と技能 …… 11
平成13 (2001) 年度	
館外展示	学校文化財 美と装飾の屏風 …… 11
企画展	祇園祭と番組小学校 …… 11
企画展	東山地域の学校文化財 その美と技能 …… 12
開館3周年記念特別展	京都の新生と番組小学校 …… 12
企画展	正月と学校 新年のしつらえ …… 12
企画展	陽春の学校文化財 梅と桜と学校 …… 12
平成14 (2002) 年度	
企画展	天神さんと小学校 …… 13
企画展	京都市立学校の名品 ― 季刊誌『創造する市民』から ― …… 13
企画展	昔の教科書大集合 ― 教科書からみる時代の教育 ― …… 13
企画展	京都の学校の礎を築いた人々 ― 全国に先がけて学校ができた背景 ― …… 14
企画展	京都の学校 ― 二部(夜間)学級の歩み ― …… 14
特別展	京都の学校ゆかりの画家 上村松園 …… 14
平成15 (2003) 年度	
企画展	子どもの風景 …… 15
企画展	むかしの教科書大集合 Part2 …… 15
特別展	こんなにある学校のたからもの ― 京都市立学校に伝わる名品のかずかず ― …… 15
企画展	日本初の幼稚園は京都にあった ― 京都における幼児教育の歴史をたどる ― …… 16
平成16 (2004) 年度	
企画展	名画に観る日本の四季 ― 京都市立学校所蔵の名品から ― …… 16
企画展	昭和30・40年代の子どもの暮らしと教育 …… 16
特別展	陶芸家からのおくりもの ― 京都市立学校所蔵の陶磁器 ― …… 17
企画展	みて、きいて、楽しかった教員展 …… 17
平成17 (2005) 年度	
企画展	記念の奇贈 ― 京都市立学校の記念のために贈られた美術工芸品 ― …… 17
企画展	思い出の学校行事 …… 18
特別展	美術工芸品に観る鳥たち ― 京都市立学校所蔵の名品と上村淳之 ― …… 18
企画展	教科書のなかの女性たち ― なつかしの教科書大集合 ― …… 18
平成18 (2006) 年度	
企画展	教壇に立つ芸術家たち ― 京都市立学校所蔵品から銅駝美工高まで ― …… 19
特別展	子ども博物館展 ― 唐澤富太郎コレクションより ― …… 19
企画展	おもしろおすなあ 京の町 ― 美術工芸品にみる京のあちこち京のあれこれ ― …… 19
企画展	昭和の思い出と子どもたち ― 新小学校教育制度60年と教科書 ― …… 20



平成19 (2007) 年度	企画展	"まなびや"に咲く百花展 — 京都市立学校所蔵作品から —	20
	企画展	「なんで？」から始まる科学のこころ — 教科「理科」誕生120年 —	20
	企画展	「日本画」むかし・いま — 明治の京都毛筆画教育を訪ねて —	21
	企画展	「京都盲啞院」発！ — 障害のある子どもたちの教育の源流 —	21
平成20 (2008) 年度	企画展	学校のたからもの展 — 番組小から140年 時代を超えて子どもたちへ —	21
	企画展	なぜ？なに？学校歴史博物館 — 10年間のご質問に一度にお答えいたします —	22
	開館10周年記念特別展	松園・松篁・淳之 — 芸術家を育んだ京の町 —	22
	企画展	写真でつづる昭和の子ども — レンズをとおして見た京の世相と学校生活 —	23
平成21 (2009) 年度	企画展	京が育てた人 京を育てる人 — 京都市文化功労者の作品を中心に —	23
	企画展	みんなの夏休み — 家族で話したい、暑かったあの日の思い出 —	24
	企画展	学校を掘る — まなびやの下の京都 —	24
	開校140周年記念企画展	町衆のエネルギー！京都・番組小学校展	24
平成22 (2010) 年度	企画展	教科書に登場する人たち	25
	企画展	学童集団疎開の記憶	25
	企画展	京都の美術教育	25
	企画展	林業のまち 京北の文化と小学校	26
平成23 (2011) 年度	企画展	収蔵品と写真でつづる京都学校物語 — 統合校を中心に 下京区編 —	26
	企画展	学校日々あれこれ — 閉校した学校の資料が語るまなびや・学校生活 — ～中京区編～	27
平成24 (2012) 年度	企画展	人の心のあたたかさ、理くつなしの涙 — 教師・大橋まりの記憶と記録 —	27
	企画展	学校で出会う 京都の日本画	28
	企画展	まなびの道具大集合！ — むかしの道具で科学を知ろう —	28
平成25 (2013) 年度	企画展	挿絵と表紙絵からみる教科書の世界	28
	企画展	学校のたからもの	29
	開館15周年記念特別展	近代京都画壇を育んだ人たち	29
	企画展	青春と学校生活 — 戦後京都の中学・高校生活 —	29
平成26 (2014) 年度	短期展示	春を描く	30
	企画展	小学校の戦前・戦中・戦後 2011—2013年度新収蔵品展	30
	企画展	絵画にたくす こどもへのメッセージ	30
	企画展	絵描き村と学校 — 衣笠に伝わる名画 —	31
	企画展	京都の高等女学校と女学生	31
平成27 (2015) 年度	短期展示	学校を飾った風景画	31
	パネル展示	番組小学校の教科書 — 正親小学校所蔵の教科書より —	31
	企画展	日本画開拓の時代 — 明治を生きた京の画家 —	32
	企画展	戦争と学校 — 戦後70年をむかえて —	33
	企画展	近代京都画壇の名品にみる 日本画 余白の美	33
	企画展	京都における特別支援教育のあゆみ	34
平成28 (2016) 年度	企画展	番組小学校の軌跡 下京三番組・明倫小学校のあゆみ	34
	企画展	日本画 初めの一步 — 教科書にみる明治美術教育 —	35
	企画展	男女共学化の時代 — 戦後京都の公立高・女子高・男子高 —	35
	企画展	むかしむかし あるところに — 教材としての昔話 —	36
	企画展	近代京都の商業学校・工業学校	36
	収蔵品展	このひと どんなひと？ — 学校を飾った人物画 —	37
平成29 (2017) 年度	企画展	学びやタイムスリップ — 京都の美術と学校 —	37
	企画展	番組小学校史入門 — 創設150周年へカウントダウン —	38
	企画展	学校と博物学	38
	企画展	近代日本の道徳教育	39

京都市学校歴史博物館 関連年表

明治 2年	「番組小学校」64校創設 (学校歴史博物館の建物である下京十一番組小学校(元開智小)創設)
明治14年	竹間小講堂新築時に学区在住の府画学校教員が墨竹図寄贈(記録上初めての「学校文化財」)
大正 7年	番組小学校創設50周年。京都の画家たちが母校や地域のためにと絵画を描いて贈り、記念事業の際、美術品寄贈することが一般化
昭和60年 6月	「京都市小学校所蔵の名品展」開催
昭和60年10月	「学校文化財調査」1300点の美術工芸品の所在を確認(昭和62年3月まで)
平成 3年度	「学校歴史資料実態調査」退職校園長会へ委託。2500点の歴史資料を確認(平成5年度まで)
平成 6年10月	「町衆と学校—京都市学校歴史展」(於：京都市生涯学習総合センター／平安建都1200年記念事業)
平成 7年11月	「学校歴史博物館基本構想策定委員会」発足
平成 8年11月	「跡地活用検討委員会」にて活用計画庁内案承認。学校歴史博物館の開設地を市立開智小学校跡地に
平成 9年 4月	「学校歴史博物館開設準備室」設置
平成10年11月	「京都市学校歴史博物館」開館 式典挙行 上田正昭館長就任 『我が国の近代教育の魁 京の学校・歴史探訪』発行
平成12年 3月	博物館年報第1号発行(以後毎年発行)
平成16年11月	特別対談「平安京の歴史と文化を語る」(上田正昭×中西進)
平成16年12月	博物館相当施設に指定
平成17年 2月	学校歴史博物館正門・石塀が国の登録有形文化財に
平成17年 3月	上村淳之 新館長就任(H17.1) 記念講演会「文化財保護、そして育成」
平成18年 6月	『京都 学校物語』発行
平成18年 7月	常設展「開智教育資料室」完成
平成19年 3月	旧成徳小学校玄関移築 国の登録有形文化財に(9月)
平成20年10月	開館10周年記念特別展「松園・松篁・淳之」— 芸術家を育んだ京の町 — 記念対談(加藤類子×上村淳之)
平成23年 4月	館運営を生涯学習振興財団から京都市直営に
平成24年 6月	研究紀要第1号発行(以後毎年発行)
平成25年11月	開館15周年記念特別展「近代京都画壇を育んだ人たち」
平成28年10月	『学びやタイムスリップ— 近代京都の学校史・美術史 —』発行
平成29年 6月	入館者30万人記念セレモニー



展示内容

平成10（1998）年の開館から、20年間の企画展・特別展の歴史を紹介します。なお、講演会講師などの肩書は当時のものです。

平成10(1998)年度

開館記念特別展「自治の原点 ― 番組小学校発展の源をさぐる ―」

長年、多くの市民から待望されていた学校歴史博物館（以下、当館）の開館を記念し、数ある学校文化財の中から、特に選りすぐりの作品を展示して、京都の教育と学校の歴史の奥深さを多くの人に知っていただく特別展として開催。特に、狩野永徳作と伝わる「雲龍図」や富岡鉄斎作「魁星之図」、山口華楊作「凝視」など、学校文化財の中でも逸品といわれる著名な芸術家の作品でオープンを飾りました。



「雲龍図」伝・狩野永徳
崇仁小学校



「風景図」小野竹斎
衣笠小学校



「花扁壺」河井寛次郎
乾小学校

開館記念・自治百周年記念シリーズ講座

- ・「住民の自治精神と京都の学校」 11月21日 小股 憲明（大阪女子大学教授）
- ・「番組小学校は、なぜ誕生したか」 11月25日 上田 正昭（京都大学名誉教授・当館館長）
- ・「京都における住民自治の歴史」 12月 3日 森谷 尅久（武庫川女子大学教授）

「新春 美術品の展示」

京都の正月は、京風の座敷床飾りで学校も町家も年の初めを祝う気持ちであふれていました。この企画展は、小学校に残されていた正月用の掛軸を展示して、学区の「町年寄」（町内代表）の「初寄」（新年の最初の寄合）の床飾り物を展示しました。各校にあった所蔵作品には、「日の出」軸のほか、御祝儀ものとしては著名作家の作品が多かったことがわかります。



左：「猿回し」鈴木松年 小野郷小学校



中：「鷹」福田翠光 嵯峨小学校



右：「旭日波濤図」小西福年 開智小学校

「春を迎える 上巳の節句」

中国の「後漢書」には、三月上旬の巳の日（後に三月三日）に役人も民衆も全てが、東を流れる川の水で清めたという記述があり、これが上巳の節句の由来とされています。日本においては、平安時代の「ひいな（人形）の遊び」や、人形による厄払いの風習とともに、江戸時代の初期に今日の三月三日の雛飾りの原形が成立したといわれています。桜の時期を前にして、春を迎える装いの季節行事「雛祭り」にまつわる人形、遊具を中心に、学校文化財・人形等を展示しました。



「御所人形 春風」
豊園小学校



「育む春」大矢真弓
大原小学校



「雛人形図」堀井香坂
御室小学校

平成11(1999)年度

春の特別展「花 咲き^{をを}撓り — 学校を彩る名品の展示 —」

学校においては、4月の行事といえば入学式であり、入学式を華やかに演出するのは校庭に咲く桜の花。桜だけでなく、校庭や花壇に咲く花・緑は春夏秋冬の学校行事を彩る舞台装置です。

一方で、花は多くの芸術家を魅了する画材であり、花をテーマにした作品は、多くの学校に寄贈されています。町衆の知恵である「織部床」を再現し、京都の町衆の生活に溶け込んだ姿を展示しました。



【蘭染付壺】近藤悠三 清水小学校



【草花】案本武雄
格致小学校



【語り合う薔薇たち】堂本元次
衣笠小学校

春の特別展関連講演会

- ・「四季折々の飾り」 5月 8日 榊原 吉郎（京都市立芸術大学教授）
- ・「寺子屋から番組小学校へ」 5月15日 大杉 隆一（当館主任研究員）

「明治の学校の教え」

石門心学、四書五経及び日本古来の伝統に基づく、明治時代の学校教育の内容について、絵画、墨蹟などの学校文化財や歴史資料を展示しました。明治に活躍した著名な政治家たちの揮毫による扁額には、貴重な、かつ味わい深いものも多く残されています。



【いろは屏風】寒鰯
龍池小学校



【日新其徳】富岡鉄斎
中立小学校



【修身歴史画】山内一豊の妻
木島櫻谷
明倫小学校

開館1周年記念 秋の特別展「日本のこころとすがた」

学校・幼稚園に数多く所蔵されている「富士山」の絵を中心に、今は失われつつある日本の原風景を展示しました。高くそびえ立ち、頂上に雪をいただいたその美しい姿は、古来日本人に愛されてきました。

染織品・陶芸品などにも「富士山」のモチーフが使われており、学校でも明治以来、「読本」や「唱歌」の教材となり、多くの「富士山」の絵画や工芸品が寄贈されています。



【木花の開耶姫】案本一洋 下鴨小学校



【北信濃早春】向井潤吉 豊園小学校



教育シンポジウム風景

- ・開館1周年記念事業 サマー・イブニング・コンサート「明治の風琴の音色と懐かしい唱歌を楽しむ」8月27日
- ・開館1周年記念事業「昔の教科書を使った授業を！」11月27日
- ・開館1周年記念事業 教育シンポジウム
「21世紀の人づくりを考える～学校教育の黎明期から、現在・未来～」12月8日

会場：京都市永松記念教育センター

協賛：人づくり21世紀委員会（代表：河合隼雄）

基調講演：「日本の近代学校教育の意義」 上田 正昭（京都大学名誉教授・当館館長）

シンポジウム：「黎明期の学校教育から、21世紀の教育・人づくりを考える」

【パネラー】 寺崎 昌男（東京大学名誉教授・桜美林大学大学院教授）

佐藤 秀夫（日本大学文理学部教授）

柴田 一（就実女子大学文学部教授）

石附 実（大阪市立大学名誉教授・京都女子大学教授）

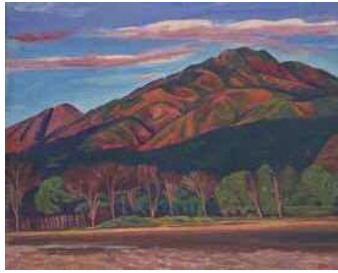
【コーディネーター】 上田 正昭（京都大学名誉教授・当館館長）

■ 「京のしわすと暮色」

師走を控え、赤穂義士四十七士を描いた六曲一隻の屏風を中心に、雪の金閣・加茂川の秋景・八坂の塔など、晩秋から冬の風景画や師走にちなんだ学校文化財を展示しました。



「赤穂義士図（48枚組）」
本能小学校



「冬の比叡」成瀬十郎
陶化小学校



「雪の金閣寺」木下青陽
郁文中学校

■ 「初はるの雲龍」

学校に残された新春に関する作品を展示しました。

■ 春の特別展

「京都市に編入された郡部 ^{かどの}葛野・^{おたぎ}愛宕・紀伊・宇治の学校名品」

明治5年の学制発布以降に創立され、その後京都市に編入された学校が所蔵する美術作品を展示して、番組小学校以外の各学校の伝統と地域の人々の学校への情熱を紹介しました。



「滝図」榊原始更
山階小学校



「北山台杉」武藤彰
中川小学校



「黄昏」岩田順三
樫原小学校

平成12(2000)年度

「学校のたからもの 文化功労者たちの京焼を中心に」

京都の学校・園に数多く所蔵されている陶磁器の中から、人間国宝や文化功労者など現代の名工たちの作品を展示しました。

※この企画展は、同年5月11日から京都市美術館別館の開館記念として開催された「学校のたからもの～京都市立学校所蔵の名品展～」に関連させた展示として開催しました。



「青白盞竹文花瓶」森野嘉光
修道小学校



「苔泥彩花瓶」今井政之
清水小学校



「蓬菜掛分扁壺 大地山河」清水卯一
六原小学校

館外展示 京都市美術館別館開館記念

「学校のたからもの — 京都市立学校所蔵の名品展 —」

京都会館の別館が京都市美術館・別館として生まれ変わり、そのこけら落としの事業の一つとして、学校等が所蔵する美術品の中から、京都が生んだ近代日本の文化を支えた偉人たちの作品を一堂に展示しました。



「魁星之図」富岡鉄斎
嵐山小学校



「姜詩妻」菊池契月
明倫小学校



「梅に雀」榊原紫峰
錦林小学校



特別講演会

・「番組小学校が生んだ巨匠たち」 5月14日 榊原 吉郎(京都市立芸術大学名誉教授) 会場：京都会館会議場

「祇園祭と明倫尋常小学校」

祇園祭の時宜にあわせて、元明倫小学校の所蔵品及び銚町の保存物の中から、祇園祭とのかかわりをしのばせる作品を展示しました。



「明倫」横村正直
明倫小学校



「祇園祭」徳力富吉郎
楊梅幼稚園



「麒麟」皆川泰蔵
明倫小学校

「学校文化財 選ばれた逸品」

数多い学校文化財の中から、狩野永徳の作と伝えられている「雲龍図」を中心に、特に逸品を展示しました。



「海」伊藤快彦 修徳小学校



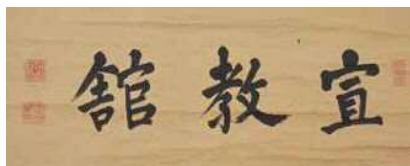
「飴釉不老長寿銘花生」北大路魯山人
梅屋小学校



「雲龍図」伝・狩野永徳
崇仁小学校

特別展 「石門心学と番組小学校」

番組小学校創設の背景には、江戸時代の思想家、石田梅岩の教えをルーツとする庶民哲学である「心学」の影響が強かったとされます。この特別展では、梅岩の遺品・関係資料の展示や、講席の場を再現、「人の人たる道」がどのように説かれ実践されたかを紹介し、梅岩の教えから学ぶものを探りました。



「宣教館」間部詮勝 日彰小学校



明倫舎模型 明倫小学校



石田梅岩像 明倫舎

「町衆の享受した文化財 — 学校に寄せる想い —」

番組小学校が創立50周年記念に地元の芸術家などから寄贈を受けた作品を中心に展示しました。日本画「母子虎図」や、富岡鉄斎筆の「忠孝」の書など、大正期の作品を集め、学校と芸術家の密接なつながりや京都の文化の奥深さを紹介しました。



「忠孝」富岡鉄斎
中立小学校



「聚楽富嶽図」富田溪仙
聚楽小学校



「母子虎図」景儼
新道小学校

「教科書で学んだ — 懐かしい歴史上の人物 —」

歴史教科書はもとより、かつての修身の教科書にも取り上げられ、歴史を動かし、日本の精神史を彩った人物画・像を展示しました。



「坂上田村麿像」竹川友廣
日彰小学校



「豊臣秀吉像」植中直斎
貞教小学校



「二宮尊徳勲業学行図」
六世大雅堂霞邨 今熊野小学校

平成13(2001)年度

特別展 「西陣地域の学校文化財 その美と技能」

「絲を繰る」「機織り図」「西陣織裂貼交屏風」など、伝統産業の地「西陣」地域に開設された番組小学校や地元で伝わる第一級の美術作品を展示しました。

特別講演会

・「西陣と学校の歴史」 4月21日 大杉 隆一（当館主任研究員）



「西陣織裂貼衝立」
桃蘭小学校



「絲を繰る」福岡玉穂
西陣小学校

館外展示 「学校文化財 美と装飾の屏風」

— アスニー開館20周年・学校歴史博物館開館3周年記念事業 —

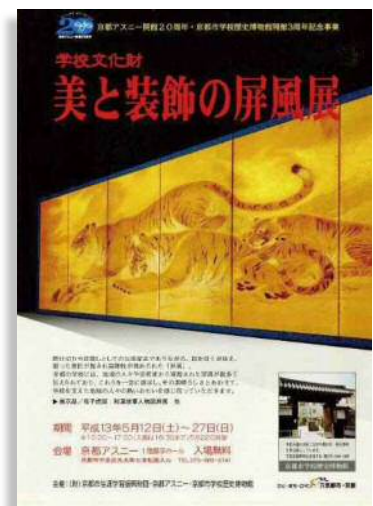
京都の学校には地域の人々や芸術家から寄贈された装飾性の高い「屏風」が数多く伝えられています。これらを一堂に展示し、その素晴らしさと合わせて、学校を支えた地域の人々の熱い思いを紹介しました。（会場：京都アスニー）



「墨竹図屏風」草場船山
竹間小学校



「竹に虎図」玄々斎安泰
乾小学校



「祇園祭と番組小学校」

山鉦町を地元を持つ、かつての番組小学校には、祇園祭ゆかりの品々が多数伝えられています。本展では祇園祭の時期に合わせて逸品の数々を展示し、祭りや学校に寄せる地域の情熱を紹介しました。



「焼岳図」川村曼舟 明倫小学校



「茄子」山口玲照 格致小学校



「凝視」山口華楊
格致小学校

・歴史散策講座「番組小学校と祇園祭」（開智自治連合会と共催）7月14日

■ 「東山地域の学校文化財 その美と技能」

春の特別展「西陣地域の学校文化財 その美と技能」につづき、伝統産業の地、「東山」地域に開設された番組小学校や地元につながる逸品を展示しました。

左：「流描鉢」河井寛次郎 修道小学校
 中：「釈尊図（仏尊之図）」棟方志功 新道小学校
 右：「春光舞鶴図」平井樵仙 六原小学校



■ 開館3周年記念特別展示 「京都の新生と番組小学校」

幕末の戦乱と東京奠都は、京都の人々に大きな衝撃と落胆を与えました。この危機的な状況の中で、京都新生の原動力の一つとなったのが番組小学校でした。

この特別展では、当時最も力を入れて取り組まれた「ものづくり」の観点から、番組小学校の歴史的意義を伝える品々を展示しました。



「押絵屏風」乾隆実務女学校裁縫専修科生徒
 乾隆小学校



「三彩流渤花瓶」六代清水六兵衛
 六原小学校



・開館3周年記念講演会
 「教育にかけた市民の情熱」 11月10日
 上田 正昭（当館館長）

■ 「正月と学校 — 新春のしつらえ —」

かつて京都の小学校では正月に新年を祝う儀式が行われていました。そのため、正月のしつらえに使用される掛け軸が数多く学校に残されています。新春を迎えるにあたり、それらの作品を用い、正月のしつらえを様々に再現しました。



「日出波濤図」前川文嶺
 明倫小学校



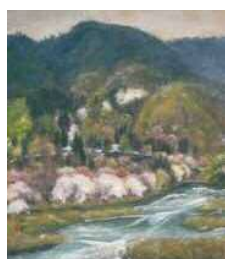
「富士」西山翠嶂
 弥栄中学校



「日の出に松」岸駒・岸岱
 小川小学校

■ 「陽春の学校文化財 — 梅と桜と学校 —」

梅は学神、菅原道真ゆかりの花として、また桜は校章のデザインにあしらわれるなど、学校との結びつきが深く、梅や桜を題材にした美術品も学校に数多く伝えられています。それらを一堂に展示し、近づく春を先取りしました。



「洛西早春」山本紅雲
 嵯峨小学校



「山櫻鳩図」廣田百豊
 滋野中学校



「色絵梅花文様花瓶」
 二代伊東陶山
 栗田小学校

平成14(2002)年度

「天神さんと小学校」

学校に保存されている天神（菅原道真）像や菅原道真を題材とした作品と、寺子屋をしのばせる資料を展示し、子どもたちの成長や学業成就を願う京都の人々の思いを浮かび上がらせました。



「菅原道真」中村大三郎
成徳中学校



「天満大自在天神」中島有章
本能小学校



「菅公配所之図」梅戸在貞
竹間小学校

「京都市立学校の名品 — 季刊誌『創造する市民』から —」

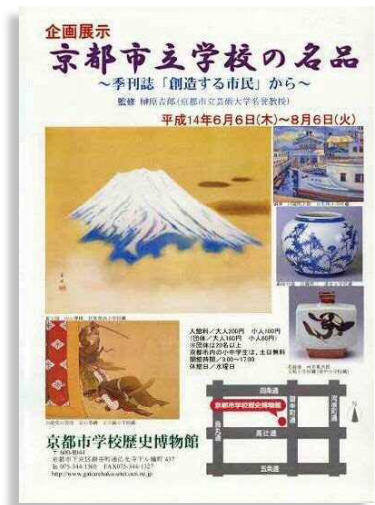
地域ゆかりのすぐれた作家の方々から、母校等に寄贈された美術工芸品のなかから、京都アスニーが刊行している「創造する市民」で紹介された作品を展示しました。



「南天に小禽図」山口華楊 本能小学校



「赤富士」小松均 大原小学校



「昔の教科書大集合 — 教科書からみる時代の教育 —」

日本の教育の歴史を具体的に物語る貴重な資料である教科書を通して、さまざまな時代に思いをめぐらせるとともに、今後の教育のあり方を考えました。



「うたのほん 下」文部省
昭和18(1943)年 当館



「桃太郎の図」大八木桂月
豊園幼稚園



■ 「京都の学校の礎を築いた人々 — 全国に先がけて学校ができた背景 —」

明治の学校の創設に尽力した先人たちを中心に、その背景にある江戸期の寺子屋、私塾、教諭所にも焦点を当てた展示を行い、先人たちの教育にかけた期待と情熱を紹介しました。

- ・併設展示
 - 「明治期の京都の学校で学んだ作家たち」
 - 「触れる教科書コーナー」
- ・特別公開対談「全国に先がけて京都に学校ができた背景」 11月30日
対談者 西島 安則（京都市立芸術大学学長・元京都大学総長）
上田 正昭（京都大学名誉教授・当館館長）



古義堂史跡



「菊図」堂本印象
富有小学校



■ 「京都の学校 — 二部（夜間）学級の歩み —」

教育制度の中の歩みとして、京都の小・中学校の「夜学」や「二部（夜間）学級」を取り上げ、その経過や実態、更には苦難を乗り越え教育に尽力された方々の足跡をたどりました。

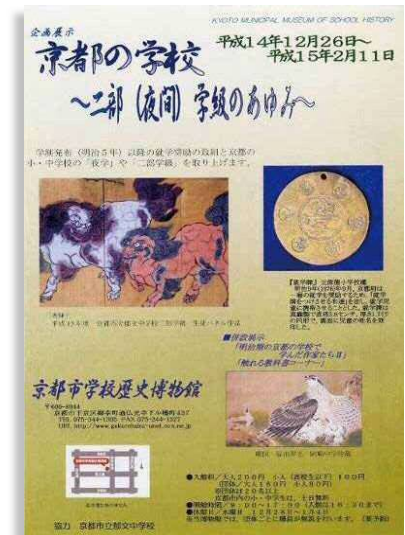
- ・併設展示 「明治期の京都の学校で学んだ作家たちⅡ」
「触れる教科書コーナー」



「栗と鳩」神原紫峰
梅園小学校



「麦秋」太田轟二郎
桃園小学校



■ 特別展 「京都の学校ゆかりの画家 上村松園」

京都の学校へ深い思い入れを持っていた画家上村松園の作品を中心に、遺品等を展示することにより、松園の人間像と彼女の芸術を育んだ京都の町の息づかいに迫りました。

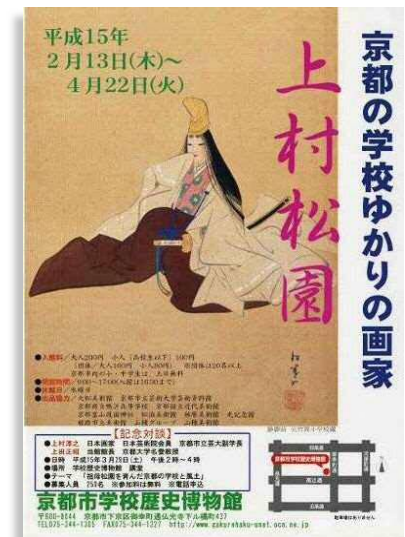


「静御前」上村松園 竹間小学校



特別展記念対談

- ・特別展記念対談「祖母松園を育んだ京都の学校と風土」 3月29日
対談者 上村 淳之（京都市立芸術大学副学長）
上田 正昭（京都大学名誉教授・当館館長）



平成15(2003)年度

子どもの風景

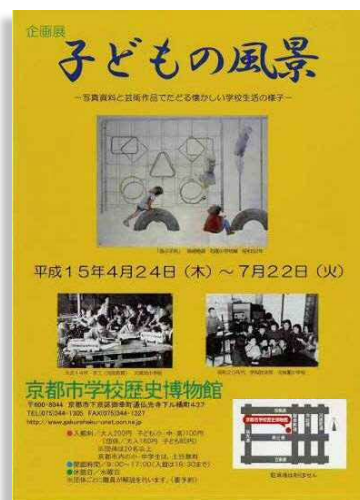
明治期から今日に至る各時代の学校生活を物語る子どもたちの様子・生活を写真資料で紹介するとともに、学校ゆかりの芸術家が描いた子どもの姿の作品を展示しました。



子供郵便局
昭和20年代 桃園小学校



「陶彫写生ををする子供」浅見賢一
六原小学校



「むかしの教科書大集合 Part2」

近代日本の歴史の中で迎えたいくつかの社会の転換期と、その当時の教科書を紹介し、日本の歩みを改めて振り返るとともに、これからの教育の在り方について考えました。



「算理解」福沢諭吉
明治4(1871)年 柳池中学校



「小学修身書 生徒用」澤幸次郎
明治27(1894)年 梅屋小学校



「豊臣秀吉像」板倉星光
豊園小学校



特別展「こんなにある学校のたからもの — 京都市立学校に伝わる名品のかずかず —」

地域の人々や芸術家などから京都市立学校に寄贈された貴重な美術工芸品(約90点)を展示。京都の学校と著名な芸術家たちとの興味深いエピソードや、子どもたちの健やかな成長を願った心温まる思いを紹介しました。



「夏」梶原一 開智小学校



「母子」海老名正夫
春日小学校

●開館5周年・第2展示室新設記念事業

記念講演会「古代の日本と東アジア ～最近の研究成果をめぐって～」 11月15日

講師 上田 正昭(京都大学名誉教授・当館館長)

・講演会「京都市立学校の名品を語る ～日本画の世界～」 11月22日

講師 榎原 吉郎(京都市立芸術大学名誉教授)



■ 「日本初の幼稚園は京都にあった — 京都における幼児教育の歴史をたどる — 」

京都の幼稚園の草創期から概ね戦後期までの歩みを、我が国の幼稚園制度の変遷と関連づけて、主に京都市立幼稚園に伝えられてきた資料を中心に紹介し、京都における幼児教育の歴史と人々の努力の足跡をたどりました。

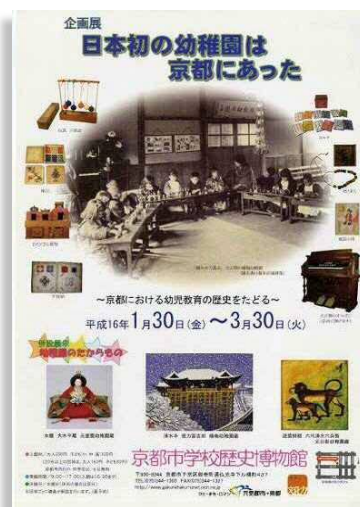
・併設展示 「幼稚園のたからもの」



フレibel肖像 当館



おくどさん模型 小川小学校



平成16(2004)年度

■ 「名画に観る日本の四季 — 京都市立学校所蔵の名品から — 」

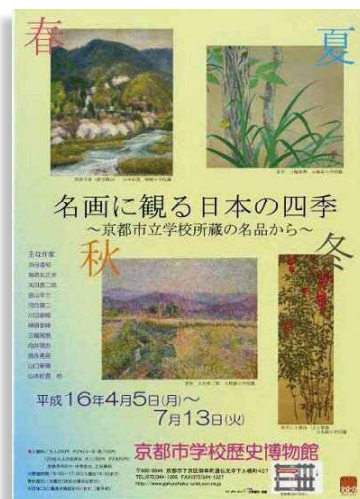
京都市立学校に所蔵されている卒業生の芸術家や地域の方々から寄贈された美術工芸品1,300点以上の中から、自然を題材にした絵画をセレクトして展示しました。展示は、春・夏・秋・冬という四季ごとにコーナー割りをを行い、日本画・洋画合わせて約70点の作品を展示しました。寄贈経過等も詳細に紹介。日本の四季を感じる展示となりました。



「春」 堀泰明
有清小学校



「夏」 上村松篁
竹間小学校



■ 「昭和30・40年代の子どもの暮らしと教育」

時代とともに変化する子どもの暮らしと教育について、衣食住ともに変貌を遂げた昭和30・40年代に焦点を当て、当時の京都市立学校の教育や学校生活、家庭での様子を、教具・日用生活品・漫画雑誌・絵本原画や学校給食献立サンプル等の多彩な展示物を使い、親子や三代で楽しんでいただける展示となりました。

・講演「京都の小学校のなりたち」 10月2日
辻 ミチ子 (佛教大学通信教育部非常勤講師)



水筒・筆箱 当館蔵



展示風景



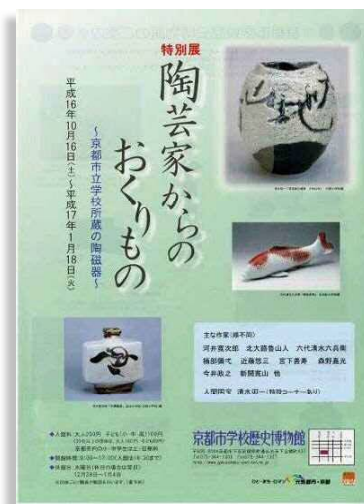
特別展「陶芸家からおくりもの — 京都市立学校所蔵の陶磁器 —」

陶芸家や学区の人々から寄贈された数多くの京都市立学校所蔵の陶磁器の名品約100点を展示。京都のやきもののすばらしさを再認識していただくとともに、陶芸家の学校に寄せる思いなどを紹介しました。また、親子三代にわたり京都市立六原小学校を卒業した故清水卯一氏の特別コーナーを設け、同氏の京都市立学校への寄贈作品などを展示しました。



左：「松竹梅唐草文茶碗」15代永楽善五郎
梅屋小学校

右：「色絵紫陽花図八角飾皿」六代清水六兵衛
清水小学校



- ・講演会「父・清水卯一と六原小学校の思い出」 10月24日 清水 保孝（陶芸家・日本工芸会理事）
- ・講演会「京都市立学校所蔵の名品・陶磁器の見どころ」 11月28日 伊東 徹夫（京都市立芸術大学教授）

「みて、きいて、楽しかった教具展」

明治初期の子どもたちが初めて目にした掛図からビデオ教材に至る様々な視聴覚教具等を展示しました。「明治初期の掛図いろいろ」のコーナーでは、玉川大学教育博物館・富士市立博物館・大阪教育大学附属図書館等から借用した掛図などを展示しました。

- ・同時開催 企画展「教壇に立った芸術家たち」



人体寄生虫寄生状態模型
柳池中学校



食用菌類模型 島津製作所
新道小学校



木製ジャバラ式幻灯機
清水小学校



風俗人歴史教材用風俗人形 中澤
教育品製作所 明倫小学校・桃園
小学校蔵形視聴覚教具



平成17(2005)年度

記念の寄贈 — 京都市立学校の記念のために贈られた美術工芸品 —

今回の企画展では、絵画・陶磁器・彫刻・染織・書など様々な分野の中から校舎改築や学校創立50周年・100周年など、京都市立学校の後世に残る意義深い出来事を記念して寄贈された作品の数々を展示することにより、卒業生の芸術家や地域の方々の学校への強い思いを感じ取っていただける京都ならではの展示となりました。



「湖辺の風景」曲子光男
教養小学校



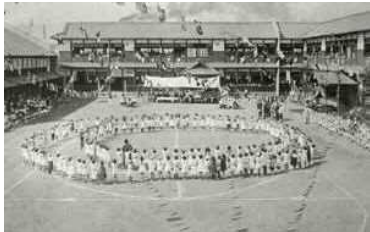
「富嶽瑞雪」木島櫻谷
明倫小学校

- ・寄贈した作者による講演会
中路 融人（日本画家）6月18日 西川 實（陶芸家）7月 9日



■ 「思い出の学校行事」

かつての学校生活の中で、仲良しの級友と共有した時間は懐かしく、それは昔も今も変わらない子ども時代の思い出です。今回の展覧会では、主に京都市立学校での行事の様子や、今は実施していない学校行事などを紹介することでその歩みをたどりました。



団体遊戯 昭和初期 大内小学校



野試合 昭和14 (1939) 年 豊園小学校

- ・ 講演会「思い出の学校行事」 6月18日
矢野 裕俊 (大阪市立大学 大学教育研究センター副所長)



■ 「美術工芸品に観る鳥たち — 京都市立学校所蔵の名品と上村淳之 —」

今回の特別展では、京都市立学校に伝わる美術工芸品のうち、鳥をモチーフとした作品を展示すると同時に、日本画家であり当学校歴史博物館長である上村淳之の花鳥画も展示しました。



「波にかもめ」橋本閑雪 教業小学校



「泉Ⅱ」上村淳之 松伯美術館

- ・ 関連事業「上村淳之館長作品解説会」 12月4日



■ 「教科書のなかの女性たち — なつかしの教科書大集合 —」

明治から昭和前期(戦前)の教科書に登場する女性は、〇〇の妻や〇〇の母という言い方で紹介されていることが多く、その内容も、家族に貢献をした手柄や態度が女性の鑑であるとしているのに対し、戦後の教科書では、人物本人が社会に貢献をした業績が述べられています。どちらも、登場する女性の生き方は、人間として素晴らしいものでありますが、男女共同参画社会を作り上げていく現在において、教科書にもっと女性を取り上げ、男女の分け隔てなく、その活動や生き方を紹介して欲しいものです。

この企画展では、それぞれの時代の教科書に登場する女性にスポットをあて、取り上げられた女性の業績や、人柄を紹介する展示としました。



ヘレン・ケラー肖像
社会福祉法人日本ヘレンケラー財団



税所敦子肖像



平成18(2006)年度

「教壇に立つ芸術家たち — 京都市立学校所蔵品から銅駝美工高まで —」

この企画展は、京都市立学校所蔵の美術工芸品の中から作家でもあった過去の教員の作品を選んだコーナーと、創立126年の長い歴史を持つ銅駝美術工芸高等学校の平成17年度在籍教員の作品を紹介するコーナーで構成しました。絵画・彫刻・陶芸・染織・漆芸とさまざまな分野の作品を展示しました。



左：「青い鳥」橋田二郎
教養小学校
右：「冬暖」下村良之介
嵯峨小学校



特別展示「こども博物館展 — 唐澤富太郎コレクションより —」

東京都練馬区にある唐澤博物館の創設者である唐澤富太郎博士は、明治44(1911)年生まれ、東京教育大学名誉教授で、日本教育史研究の大家でした。この特別展示では、膨大な唐澤富太郎コレクションのなかから、こどもの学びの創造、遊びの創造に関するものを借用し展示しました。



「子供遊び十二ヶ月」



文具・おもちゃ



「おもしろおすなあ 京の町 — 美術工芸品にみる 京のあちこち京のあれこれ —」

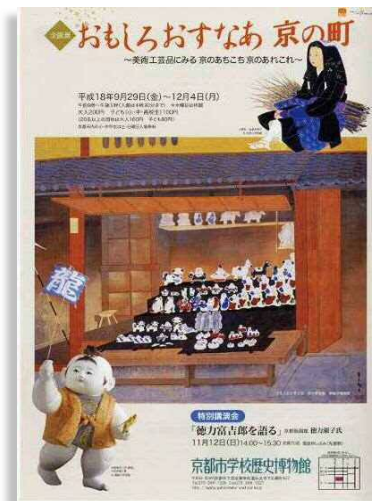
京都市の子どもたちを取り巻く環境に目を向けた企画展です。北山杉、保津峡、比叡山などの代表的な風景のみならず、自然の状態に近い水質の澤の池などの知る人ぞ知る名所も紹介しました。金閣寺など多数の神社寺院、祇園祭や葵祭、壬生狂言の情景、大原女・白川女といった風俗など、学校以外の施設からも協力を得た約75点の作品を展示しました



「大原女」由里本景子 生祥小学校



「伏見人形を売る店」徳力富吉郎 楊梅幼稚園



- ・講演会「徳力富吉郎を語る」11月12日
徳力 淑子(京都版画館)

■ 「昭和の思い出と子どもたち — 新小学校教育制度60年と教科書 —」

昭和という時代、特に戦争時から終戦後の混乱期、そして高度成長期は子どもにとっても激動の時代でした。この企画展では、戦後新教育制度の開始以後の京都市の移り変わりを背景に、当時の暮らしや学校風景を再現しました。



【社会 2年】昭和26 (1951) 年



墨をぬられた「うたのほん 下」文部省
昭和18 (1943) 年



平成19(2007)年度

■ 「“まなびや”に咲く百花展 — 京都市立学校所蔵作品から —」

四季折々に花が咲く日本では花は身近な存在です。学校においても花が親しまれてきたことは、校章のデザインが桜を元にしたものが多いことにも表れています。本展では、花を元にデザインされた校章一覧をつくり、京都市立学校所蔵の美術工芸品の中から、日本画・油彩画・陶芸・漆芸・染織とさまざまな分野の花をモチーフとした作品を紹介しました。



【草花図】澤部清五郎
翔鸞幼稚園



【旭日桜花】木島櫻谷
下鴨小学校



■ 『「なんで?」から始まる科学のこころ — 教科「理科」誕生120年 —』

明治20 (1887) 年、小学校で「理科」という教科を教えるようになってから、平成19年で120年が経過します。動植物の名前や特徴を覚える「博物」や「問答」という科目が生まれ、「物理」「化学」「生理」を加えた高度な内容を小学校で教えるようになりました。これらをまとめて「理科」としたのが明治20年のことです。

この企画展では、かつて京都市立学校で使われた理科実験器具や教材を時代ごとに展示し、一部体験コーナーを設けました。



左：ニュートンの七色板 明倫小学校
右：人体模型



「『日本画』むかし・いま — 明治の京都毛筆画教育を訪ねて —」

近代の図画教育は当初、西洋の図画手本を引用してつくられた鉛筆画の教科書で行われていました。しかし伝統工芸の盛んな地であるとともに、長い画壇の歴史をもつ京都では、毛筆画を伝授する必要があるとの意見が起こり、京都の小学校の図画教育は毛筆画が主流となり、また全国的にも毛筆画教育が盛んになりました。久保田米僊・森川曾文・望月玉泉などの画家も教科書を著し、京都で出版されました。

本展では、図画教科書や生徒作品と共に、明治以前の絵画から現在までの日本画の逸品も展観しました。



左：「松芝萬年図」今尾景年
富有小学校
右：「玉泉習画帖 首巻」望月玉泉
京極小学校



「『京都盲啞院』発！ — 障害のある子どもたちの教育の源流 —」

日本視聴覚障害児教育の祖、古河太四郎は、障害のある子どもにも均しく教育の機会を準備し、その発達を保障しようと明治11（1878）年に、京都に日本初の視聴覚障害児のための学校「盲啞院」を開校させました。

この企画展では、64校の番組小学校を明治2年に開校させた京都の町の特性とヒューマンイズムを踏まえて、主に明治時代に盲啞院で開発・使用された教具や資料を展示しました。



体操風景 明治時代 京都府立聾学校

- ・イベント「展示物をさわられる日」
2月11日・3月1日・
3月27日・4月6日



平成20(2008)年度

「学校のたからもの展 — 番組小から140年 時代を超えて子どもたちへ —」

明治2年に開校した京都の学校は、平成21年で140周年を迎えました。また平成20年には当博物館が開館10周年を迎えました。

それを記念して、京都市立幼稚園・小学校・中学校・高等学校などが所蔵する多数の作品の中から佳品を選び一堂に展示しました。



「琉球山原船」川端彌之助
生祥小学校

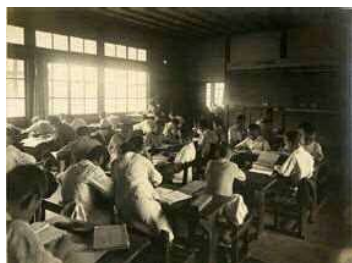


「山内一豊の妻」樋口富麻呂
錦林小学校



■なぜ？なに？学校歴史博物館 — 10年間のご質問に一度にお答えいたします —

学校歴史博物館が開館した平成10年11月から、市民の皆様から当館に多くの「学校」に関する質問もお寄せいただきました。その記録をベースに、10周年の節目にあたって、学校に関する雑学をご覧いただける企画展を開催しました。



連結机・腰掛での自由学習風景
大正期 明倫小学校



「運動会の徒競走」
明治34（1901）年 初音中学校



■開館10周年記念特別展「松園・松篁・淳之 — 芸術家を育んだ京の町 —」

開館10周年を記念して、上村松園・松篁・淳之と三代にわたって京都に生まれ京都に深く関わってきた芸術家をとりあげる展覧会を開催しました。

上村松園（1875～1949）は、開智小学校から京都府画学校へすすみました。上村松篁（1902～2000）は初音尋常小学校を卒業、京都市立美術工芸学校から京都市立絵画専門学校へすすみ、市立美術工芸学校講師から京都市立美術大学教授、のち名誉教授となりました。上村淳之（1933～）は竹間尋常小学校に通い、京都市立美術大学専攻科修了後、京都市立芸術大学教授、のち副学長をつとめました。三人の芸術家の作品世界を鑑賞していただくとともに、彼らを育んだ京都の学校や京都の町を感じていただきました。



左：「雁金」上村松篁
松伯美術館
右：「人生の花」上村松園
京都市美術館



- ・記念対談「上村淳之・加藤類子 京都画壇を語る」 10月25日
加藤 類子（元京都国立近代美術館主任研究官）
上村 淳之（日本画家・当館館長）

■ 「写真でつづる昭和の子ども — レンズをとおして見た京の世相と学校生活 — 」

学校には、様々な記録とともに、多くの写真が保存されています。写真には、活気にあふれた子どもの姿とともに、日本の高度経済成長期の一側面が映しだされています。

太平洋戦争後の復興期に一齐に開校した中学校，ベビーブームから昭和40年代にかけて子どもの人数が2千人を超えて分校が出来た小学校。また，周辺地域の土地開発によって，新たに設置された学校が整備される様子などが撮られ，学校に残っています。こういった写真を広く多くの皆様に見ていただきたく展覧会を開催しました。



「たこあげ大会」
昭和33（1958）年 呉竹養護学校



「歓迎！朝永振一郎先輩」
昭和41（1966）年2月12日 錦林小学校

- ・併設展「教える道具 ～カタチのちがう教科書～」



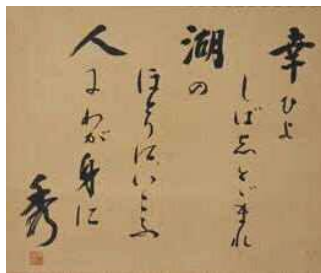
平成21(2009)年度

■ 「京が育てた人 京を育てる人 — 京都市文化功労者の作品を中心に — 」

京都市では、永年にわたり京都市の学術・芸術などの文化の向上に多大の功労がある方々を、「京都市文化功労者」として表彰しています。この企画展では、京都市立学校所蔵の作品の中から、京都市文化功労者の作品を中心に紹介しました。



「青年」秋野不矩
日影小学校



「和歌」湯川秀樹
下鴨小学校



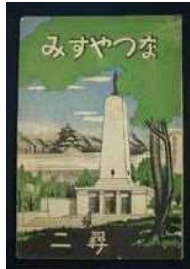
「みんなの夏休み ― 家族で話したい、暑かったあの日の思い出 ―」

夏休みといったら、何を思い出すでしょう。友達と暗くなるまで遊んだこと、苦勞した宿題、頑張って通ったラジオ体操などたくさんあると思いますが、誰もが自分だけの特別な思い出をお持ちではないでしょうか。この企画展では、各世代がそれぞれに自分の体験を語り合えるよう、明治から平成までの夏休みから連想される様々な資料を展示しました。

- ・併設展「教える道具パートⅡ ～算術の道具～」



ラジオ体操指導～新町通で～
太平洋戦争中 個人



【なつやすみ 尋二】
昭和13 (1938) 年
立命館大学国際平和ミュージアム



「学校を掘る ― まなびやの下の京都 ―」

地中に埋もれた文化財は、私たちの知らない京都の姿、平安京以前の昔から、永い年月の京都の町の営みを浮かび上がらせてくれます。京都市立学校の敷地の調査は、これまでに200回以上も行われ、成果をあげてきました。

この企画展では、財団法人京都市埋蔵文化財研究所と、京都市考古資料館の協力を得て、これらの成果を、約60校の遺跡の写真と出土遺物で紹介しました。

- ・併設展「学校のたからもの～歴史を彩る人々～」
- ・記念講演会「校庭に眠るいにしへの京都」 11月22日
丸川 義広 (財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 総括主任)



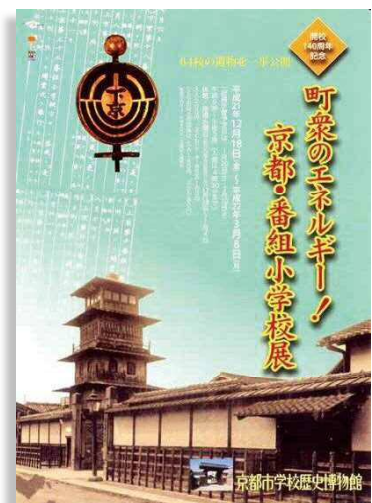
開校140周年記念企画展「町衆のエネルギー！京都・番組小学校展」

明治維新の混乱期に、一斉に開校した64の番組小学校は、誇りある町衆の拠り所でした。開校140周年を迎えるにあたり、明治より現在に伝えられた64校全ての遺物を一挙に公開し、開校当時の京都の町衆の、小学校創設にかけるエネルギーの強大さを感じていただきました。

- ・記念講演会「近世京都の教育文化と番組小学校」 1月17日
辻本 雅史 (京都大学大学院教育学研究科 教授)
- ・特別事業 ①「京都漢字探検隊 学校で漢字を見つけよう」 1月23日
(立命館大学 白川静記念東洋文字文化研究所との共催事業)
- ②「学校歴史ウォーキング」 5月21日



左：明治10年築の望火楼 梅屋小学校
右：明治30年頃の石塀と望火楼 郁文中学校



平成22(2010)年度

「教科書に登場する人たち」

明治時代から学校で使われてきた教科書の中には、歴史上の人物、物語の人物のほかさまざまな人間像が見られます。京都市立学校の所蔵品の中から、それらの人々や教科書にちなんだ美術工芸品、教科書に出てくる人物が書いた書などを中心に展示しました。



「桃太郎図」猪飼嘯谷 滋野中学校



「菅原道真」案本一洋 新道小学校



「学童集団疎開の記憶」

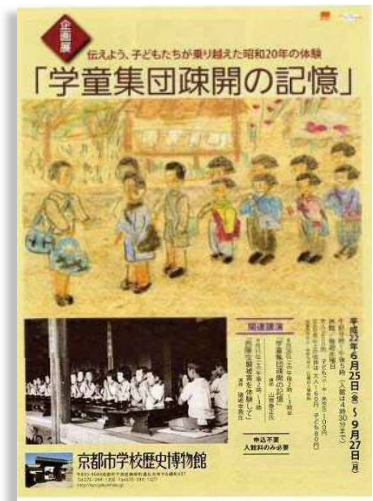
太平洋戦争が激化した昭和19(1944)年、国民学校初等科児童の集団疎開が閣議決定され、京都市では、馬町(修道学区)空襲の起こった昭和20年3月に新3年生以上を対象にした第一次集団疎開が実施されました。約7ヶ月間、児童達は親元を離れ、京都府下の寺院や教会、旅館などで集団生活を送りました。疎開地での生活は現代の我々が考えるよりもはるかに過酷で、その記憶は今でも経験者の心に鮮明に残っているのです。その貴重な記憶を「展示」という手段を通じて、後世に伝えていくことが必要であると考へて展覧会を開催しました。



中立国民学校疎開風景 中立小学校



日彰国民学校浄泉寺寮 日影小学校



「京都の美術教育」

この企画展は、明治から現在までの美術教育を、数々の教科書や生徒作品とともに紹介しました。また、京都市立学校が所蔵する美術工芸品の中から、こどもを描いた絵画や彫刻などの作品を選び、その写真をカード化して鑑賞させ、感じたことを発表しあう授業実践事例とその作品自体を展示し、模擬授業も行いました。さらに美術教育に携わった人々の作品も展示しました。



「柘榴」須田国太郎
西陣小学校



「しゃぼんだま」西田秀雄
明徳幼稚園



「松芝萬年図」今尾景年
富有小学校



■ 「林業のまち 京北の文化と小学校」

平成17（2005）年、北桑田郡京北町は京都市右京区のまちとなりました。合併編入5周年を迎えたことを機に、京北の歴史・文化と学校教育を紹介する展覧会を開催しました。明治時代には9校を数えた京北の小学校も、現在は統合によって3校になりました。それらの学校には、京北の学校の歴史や、教育方針を物語る貴重な資料が保管されているのです。

本企画展では、それらの資料を紹介することによって、山を隔てた京北地域の特色を理解していただくことを主眼にしました。



筏を組む 右京区役所京北出張所



造基館扁額 宇津小学校



平成23(2011)年度

■ 「収蔵品と写真でつづる京都学校物語 — 統合校を中心に 下京区編 —」

番組小学校が開校して140年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しました。全国的な出生率の低下により、児童・生徒数は減少し、昭和50年代には、京都市内中心部で小規模学級の問題が顕在化し始めました。各学区では、伝統ある学校を閉校して、近隣の学校と統合する道を選択し、その波は現在も続いています。統合によって、子どもが学ぶ「学校」としての使命は終わりましたが、学区の誇りと伝統は消えることなく、新しい学校に通う子供たちに受け継がれています。

この企画展では、下京区内の閉校した学校にあった、写真や資料を中心に展示をしました。



「海」向井潤吉
豊園小学校



屋上ダンス
大正13（1924）年 永松小学校



■ 「学校 日々あれこれ — 閉校した学校の資料が語るまなびや・学校生活 — ～中京区編～」

明治2（1869）年の開校以来、京都の小学校では、学校ごとに日々さまざまな出来事がありました。そんな思い出のつまった学校は、統合によって、新しい使命を与えられました。この企画展では中京区内の閉校した学校の資料の中から、学校で起こった興味深い出来事をあらかず資料を取り上げ展示しました。



京都初、立誠校の校内プール



元本能校の青い目の人形
(高倉小学校蔵)

・併設展「戦時下の学校生活」



平成24(2012)年度

■ 「人の心のあたたかさ、理くつなしの涙 — 教師・大橋まりの記憶と記録 — 」

戦中から戦後にかけて、一教師として生涯を全うした、ひとりの女性。その教師の記憶と記録にふれ、そこに生命を吹きこむ。

本展は、小学校教師・大橋まり（1923～2009）の教師人生をふり振り返り、そこに宿るさまざまな思いと情景を体感していただく試みとして開催しました。

展示資料は、主に卒業文集や写真、手紙など、ありふれたものばかりです。しかしそこには、大橋とその児童たちが遺した、かけがえのない生活の思い出が宿っています。この企画展を通して、戦中戦後の激動期を生き抜いた大橋まりという一教師の歩みをもとに、学校生活の中で生まれた〈人の心のあたたかさ〉を感じていただけたのではないのでしょうか。



音楽の授業風景 1960年代後半



小学5年生用音楽教科書『あの音あゝの聲』表紙絵
教育出版、1948年検定済



・併設展「疎開の記録」「戦後の音楽教科書」

■ 「学校で出会う 京都の日本画」

この企画展では、京都の市立学校に伝わる日本画を一堂に展示しました。江戸期のものから昭和のものまで、学校という場所で世代をこえてたくさんの人によって伝えられてきた91点の作品たちが、元開智小学校を飾りました。



「東京オリンピック」
豊園小学校



「黄衣」今尾津屋子
開智小学校



■ 「まなびの道具大集合！ — むかしの道具で科学を知ろう —」

当館は、統廃合などで閉校した小・中学校などから収集した、多数の教材・教具類を所蔵しており、中には大変貴重なものもあります。

この企画展では、その中から小学校の理科・算数・社会で使用されていた教材・教具・実験器具をご覧いただきました。また、展示室内にはこれらの「まなびの道具」を実際に使うことのできる体験コーナーを設置しました。



ピョントロウカルタ



蒸気機関模型
龍池小学校



分数説明器
日彰小学校



平成25(2013)年度

■ 「挿絵と表紙絵からみる教科書の世界」

子どもの頃、教科書から連想するのは勉強でした。そのせいで、教科書は「難しく」「おもしろくなくて」「堅い」といったイメージを持たれがちです。しかし、教科書の挿絵や表紙絵は、よく見ると豊かな表情を持ち、とてもユニークなのです。

この企画展では、明治期から現代までの教科書に描かれた挿絵と表紙絵をご覧いただきました。思わず胸がときめくユニークな挿絵から、時代背景を映した奥深いものまで、勢ぞろいの展示となりました。



「小学国語読本 巻二 尋常科用」文部省
昭和8 (1933) 年より



「小学校用 おんがく一 修正版」中京出版
昭和27 (1952) 年文部省検定済より



■ 「学校のたからもの」

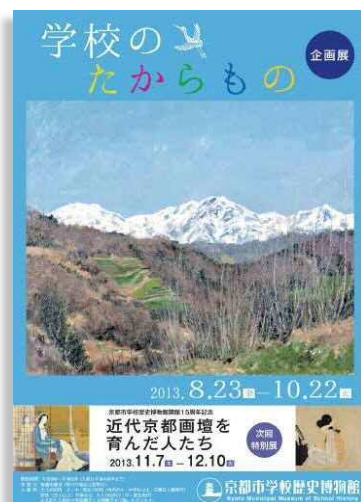
この企画展では「学校のたからもの」と題し、京都の市立学校が所蔵する美術作品を一挙に50点展示しました。日本画・洋画・染色などの工芸作品・彫刻・書など多様な作品が一堂に展示され、それぞれが学校を飾っていた姿が思い起こされました。出展作品は、生祥校出身の安井曾太郎が母校に贈った作品「カーネーション」や西陣織が活気づいていた明治時代に西陣校に贈られた「西陣織裂貼交屏風」など、当博物館の所蔵作品が持つ「学校と美術との縁」を存分に楽しんでいただけるラインアップとなりました。



「カーネーション」安井曾太郎
生祥小学校



「脩厥徳」伊藤博文
修徳小学校



■ 開館15周年記念特別展 「近代京都画壇を育んだ人たち」

京都市学校歴史博物館開館15周年を記念した特別展。京都は明治以降、今日に至るまで日本画の中心地のひとつとして美術界を牽引してきました。この特別展では、上村松園、西村五雲、石崎光瑠、榊原紫峰、土田麦僊、村上華岳、小野竹喬、福田平八郎、徳岡神泉という近代京都画壇を代表する9人の作家の作品26点に加え、画家たちの創作の軌跡である素描を8点展示しました。

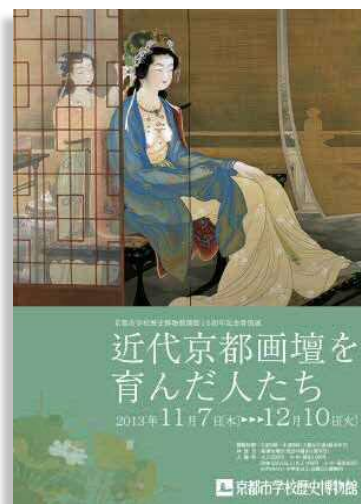
※図録を発行しました。



「楊貴妃」上村松園 松伯美術館



「油断大敵」西村五雲 本能小学校



■ 「青春と学校生活 — 戦後京都の中学・高校生活 —」

戦後30年あまりの間に、日本の中等教育の姿、そして「青春」時代のあり方は、大きく様変わりしてきました。戦後の新制中学校は義務教育化され、新制中学校・高等学校ともに原則男女共学になりました。1970年前後には「青春」をタイトルにした学園モノのドラマが立て続けに放送されるなど、「青春」と学校生活は切り離せないものになっていきました。

この企画展では、京都市の中学・高校生活を舞台に、戦後から近年までの「青春」にちなんだ資料をご覧いただきました。

講演会

- ・「『青春』に未来はあるのか？」 12月21日
荒瀬 克己（元京都市立堀川高等学校校長）
- ・「夢とロマンと『青春』」 2月22日
長者 善高（元京都市立修学院中学校校長）



鴨川で記念写真
昭和42（1967）年 紫野高校



平成26(2014)年度

短期展示「春を描く」

「春」は学校にとって特別な季節です。生徒たちが前途への希望を胸に卒業、入学を行う喜びの季節。そんな多くの出会いと別れを彩ってきたのが、学校に飾られた絵画たちでした。

この企画展は京都市立の学校が所蔵するたくさんの絵画作品の中から、桃や桜の花が咲く景色が描かれたものなど、「春」を題材にしたものを紹介しました。あわせて、卒業を記念して生徒が制作した絵画なども展示しました。



「牧場の初春」望月玉成
竹岡小学校



「桜花鴛鴦図」神谷光臣
柏野小学校



「小学校の戦前・戦中・戦後 2011-2013年度新収藏品展」

京都における小学校の戦前・戦中・戦後の姿を、2011年度以降の3年間にご寄贈いただいた新収藏品から振り返りました。展示史料は、戦前の小学校の卒業記念写真帖や文房具、戦時下の通知表、教育勅語、学童集団疎開に関する史料、戦後のガリ版の謄写版、PTA（育友会）の会紙、区民運動会の写真など、全115点にわたりました。



軍事教練（『銃後の京都』第7号より）
1943（昭和18）年



第五回遺児靖国神社参拝記念写真
1943（昭和18）年

- ・講演会「みんなで創ったみんなで育てた！ -京都番組小学校の歩み-」
6月1日 和崎 光太郎（当館学芸員）



「絵画にたくす こどもへのメッセージ」

明治時代、「子どもにこそ良い文化を」という考えのもと、絵画や雑誌など、子ども向けのもが多く制作されました。制作にあたったのは、画家や文筆家など当時の一流文化人たちでした。学業成就を願って描かれた菅原道真や紫式部の肖像、歴史教育や修身教育に用いられた楠木公や孝子儀平の肖像、少年少女が描かれた引札などを展示しました。



- 左：「猛虎慈愛図」三尾呉石 梅屋小学校
- 中：「錦絵修身談（ピエールの信）」月岡芳年 日影幼稚園
- 右：「旧都観月図」千種掃雲 教養小学校



「絵描き村と学校 — 衣笠に伝わる名画 —」

衣笠の地に学校ができたのは明治6年、平野神社の境内にできた学び舎がはじまりでした。その後、衣笠校から分校し、大將軍校や金閣校が開校しました。これらの学校を育んだ衣笠の地は、大正時代から多くの画家がアトリエを構えるなど豊かな文化を持つところとして知られ、地域の学校では画家たちが寄贈した絵画が多く保存されているのです。本展では、学校所蔵の日本画など衣笠ゆかりの作品を展示し、創立140周年を迎えた衣笠校を中心に、衣笠の地を拠点とした画家たちと学校との関係を振り返りました。



「秋乃背戸」加藤英舟
衣笠小学校



「創造」堂本印象
衣笠小学校



- ・学芸員による解説講座「衣笠の画家と学校」11月30日 森 光彦（当館学芸員）

「京都の高等女学校と女学生」

昭和22（1947）年までの女子中等普通教育は、主に高等女学校が担っていました。しかし、高等女学校がいかなる学校であったのか、たとえば入学するにはどれくらいの学力が必要で、学校ではどのような服装ですごし、どのような教科内容を学習していたのかなど、今日ではあまり知られていません。そこで本展では、京都市における高等女学校と、そこに通った女学生に関する史料、100点余りを展示しました。



左：市電停留所「堀川蛸薬師（女学校前）」昭和17（1942）年 市立堀川高等女学校
中：ダンスオブウェーブス 大正15（1926）年 京都市立第二高等女学校
右：日本初のセーラー制服（冬服）大正9（1920）年 平安高等女学校

- ・講演会「京都における高等女学校のあゆみ」3月1日・15日
和崎 光太郎（当館学芸員）



平成27(2015)年度

短期展示「学校を飾った風景画」

京都市立学校が所蔵していた美術作品の中から、風景や都市の景観を描いた絵画に焦点を当てた特集展示です。京都の景色や富士などの名所絵、中国の山水を描いた水墨画まで、学び舎を飾った雄大な景色の美をご覧頂きました。



「嵐山風景」伊谷賢三 明倫小学校



「三河湾所見」廣本進 葵小学校



〈同時開催〉パネル展示「番組小学校の教科書 — 正親小学校所蔵の教科書より — 」



「今弁慶」より



大正期の正親校

■ 「日本画開拓の時代 — 明治を生きた京の画家 — 」

明治は画家たちにとって激動の時代であり、急速な文明開化は絵画制作を取り巻く価値観を大きく変えました。国際的な博覧会の開催により世界の美術が紹介され、学校教育制度の確立によって絵の描き方を学校で教えるようになり、新聞や雑誌などのメディアが台頭すると、挿絵は情報伝達の有力な手段として用いられました。このように江戸時代までの絵画の在り方を一変させるような状況になり、画家たちはどう近代社会と関係していくのが問われる時代になったのです。京都では画人たちが団結し、「新しい日本画」の創造を目指しました。

この企画展は、そうした時代に京都で誕生した、近代日本画の出発点ともいえる作品を中心に展示しました。

※解説パンフレットを発行しました。



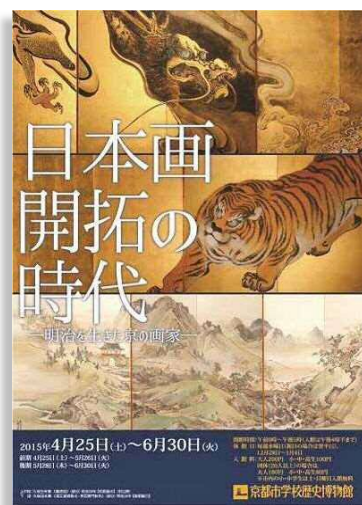
「龍虎図」久保田米僊



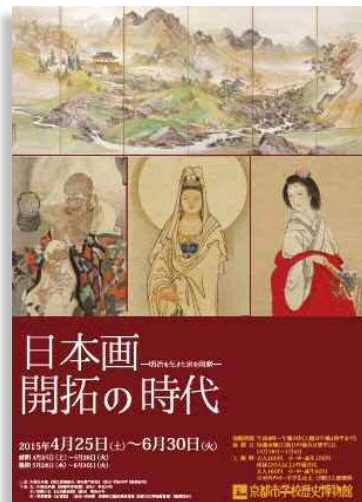
「滝野川秋景」田能村直入



「雨中丹楓図」巨勢小石 佛光寺



前期



後期

講演会

- ・「京都の明治美術再考」 5月24日 原田 平作（大阪大学名誉教授）
- ・「よくわかる幸野椋嶺入門」 6月 7日 植田彩芳子（京都文化博物館学芸員）
- ・「明治人・久保田米僊の生き方」 6月14日 森 光彦（当館学芸員）

■ 「戦争と学校 — 戦後70年をむかえて —」

平成27年は、第二次世界大戦の終戦から70年という節目の年でした。開戦後、学校はしだいに戦時色が強まっていき、昭和19（1944）年から本格的な学徒勤労動員、昭和20（1945）年から学童集団疎開も始まり、終戦を迎えます。ただし「終戦」というのは、あくまで戦いが終わったということ。食糧不足、戦中戦後の学校再編、学童疎開・学徒勤労動員の経験、親の戦死など、戦争の影響や記憶は「戦後」も残り続けます。本展では、市内の小学校・中等教育の学校（今の中学・高校）を対象に、戦時下の学校生活がいかなるものであったか、そして戦争が「戦後」の学校にどのような影響を与えたのかを振り返りました。

- ・講演会「戦争は学校に何を残したのか—戦後70年をむかえて—」
8月8日・15日 和崎 光太郎（当館学芸員）



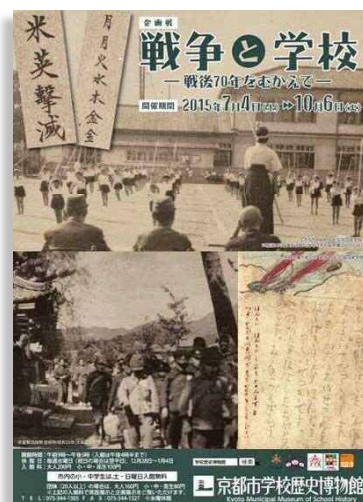
先生の応召記念
昭和18（1943）年頃 市立女子商業学校



黒塗りが残る校舎
昭和21（1946）年 四条商業学校



教育二開スル勅語（謄本）
待賢尋常小学校（国民学校）



■ 「近代京都画壇の名品にみる 日本画 余白の美」

日本美術の歴史の中で、画家たちが大切にしてきたことがあります。それは「余白」に詩情を込める、ということです。日本の絵画は「描かない」余白に大きな意味を込め、空間の「遠さ」や「広がり」を表現します。それが日本画独特の詩情を生み、鑑賞者は吸い込まれるように絵の世界に誘われるのです。この展覧会では「余白の美」をテーマに近代の日本画38点を紹介し、日本画が織り成す空間の美しさを改めて見直しました。

- ・講演会「余白の文化—日本画の空間表現について—」 10月20日
上村 淳之（当館館長）



「金魚」上村松篁
松伯美術館



「虞美人草」竹内栖鳳
当館



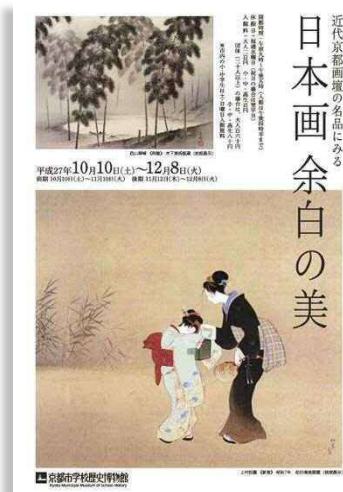
「鴛鴦」上村松篁
松伯美術館



「雨餘」西山翠嶂
木下美術館



「芦」上村松篁
松伯美術館



「京都における特別支援教育のあゆみ」

特別支援教育は、時代によってその呼び方だけでなく、制度や教育内容など、様々なことが遷り変わる中で、発展してきました。本展では、当館の所蔵品のほか、京都市内の特別支援学校、元教職員の方々などからご提供いただいた、写真・史料等、約130点を展示し、京都におけるその歴史的なあゆみを様々な史料を通してたどりました。

※解説図録を発行しました。当館HPにて閲覧可能です。

- ・講演会「特別支援教育史に『教育の本質』を探る」 3月6日・13日
和崎 光太郎（当館学芸員）



田村一「忘れられた子等」(教育図書,1942年)
「手をつなぐ子等」(大雅堂,1944年)



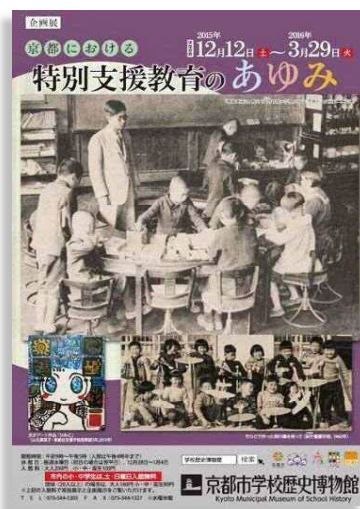
スクールバスに乗車
1958年 呉竹養護学校



もちつき大会 1981年 鳴滝養護学校



石像「怪獣」に乗って
1978年 呉竹養護学校桃陽分校



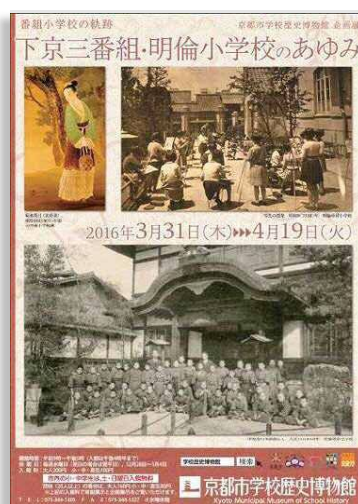
平成28(2016)年度

「番組小学校の軌跡 下京三番組・明倫小学校のあゆみ」

明治2(1869-70)年に創設された、64の京都番組小学校。その歴史的なあゆみは、これまで当館常設展示でご覧いただけてきました。しかし、企画展として1校をとりあげ、じっくりと多くの史料をご覧いただく機会は、これまでありませんでした。そこで本展では、史料や美術作品が比較的多く残されており、かつ閉校後には京都芸術センターとして市民の方々になじみのある元小学校として、明倫小学校(下京三番組小学校)をピックアップし、同校ゆかりの史料・美術作品を展示しました。

講演会

- ・「しらないことにてあうばしょー明治・大正・昭和の明倫小学校ー」
4月8日 和崎 光太郎（当館学芸員）
京都芸術センター（元明倫小学校）にて
- ・「心学講舎・明倫舎から、明倫小学校へ」 4月10日
高野 秀晴（仁愛大学准教授）
- ・「番組はいかにして『学区』になったのかー学区制度の成立史ー」
4月17日 和崎 光太郎（当館学芸員）



- 左：「國光」中村大三郎
明倫小学校
- 中：「修身歴史画 布袋童子」 木島櫻谷
明倫小学校
- 右：旧校舎の玄関前で写真
昭和初期 明倫小学校

■ 「日本画 初めの一步 — 教科書にみる明治美術教育 — 」

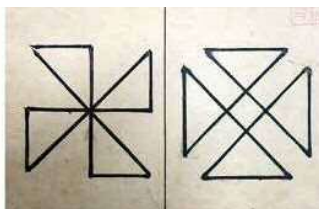
近代的な美術教育は、文明開化の一環として始まりました。それゆえ明治初期の小学校では、図画の授業は西洋に倣って鉛筆による洋画の練習を行っていました。しかし明治20年代になると、古来より日本画の中心地であった京都では毛筆を使った日本画教育の必要が叫ばれるようになります。伝統産業を重視する気風もあり、京都では全国にさきがけて小学校で日本画の授業が行われ、京都独自の教科書も多く作られました。

本展では学校に残された明治期の文書資料・絵画作品・教科書などを展示し、京都において先駆的に日本画教育が始められた経緯や教育の実態を振り返りました。

- ・解説講座「明治の日本画と教育」 6月19日
森 光彦 (当館学芸員)



『小学日本画帖 乙種三之上』竹内栖鳳著
表紙(左) 部分(右) 明治34 (1901) 年



『小学毛筆習字帖 巻二上』久保田米麿著
表紙(左) 部分(右) 明治22 (1889) 年 教業小学校

■ 「男女共学化の時代 — 戦後京都の公立高・女子高・男子高 — 」

中等教育の男女共学化は、第二次大戦後、GHQ (連合国軍最高司令官総司令部) の意向が強く反映された教育改革によってなされました。地方軍政部の管理が厳格だった京都の公立高等学校では、1948 (昭和23) 年10月に地域制 (小学区制)・総合制と同時に実施、徹底されました。ゆえに、京都では公立高の男女共学が「あたりまえ」だと思われています。しかし、他の地域では、戦後に公立の女子高・男子高が誕生したところがあり、そのうちいくつかは、現在でも男女別学のままなのです。

本展では、昭和50 (1975) 年頃までを対象に、京都市内の公立高において男女共学化が実施され、受け止められてきた頃の写真や学校新聞、教科書などを、女子高・男子高の資料も含めて展示しました。

講演会

- ・「男女別学の時代と女学校文化」 9月4日
稲垣 恭子 (京都大学大学院教育学研究科教授・京都市社会教育委員)
- ・『「高校三原則」の実像』 9月24日 和崎 光太郎 (当館学芸員)



『西京学園新聞』 創刊号
昭和23 (1948) 年 西京高校



初めてのマキノスキー場
昭和25 (1950) 年1月 京都府立高校



仮装行列「学生に関する十二音」
昭和29 (1954) 年 京都市内私立女子高校

「むかしむかし あるところに — 教材としての昔話 —」

本展では、教科書をはじめ、桃太郎や舌切雀といった昔話を題材にした様々な教材を紹介しました。その多くは画家が手がけた挿絵と共に紹介され、子どもたちにとって楽しく身近なものとして学ばれました。その他、屏風や掛け軸などの、画家によって学校に寄贈された日本画作品にも、様々な昔話が登場し、子どもの学びに役立ちました。これらを通して、画家が子どもたちを楽しませるためにした工夫を明らかにし、また昔話に込められた教訓を通して、時代ごとの教育に対する考え方の変遷を検討しました。

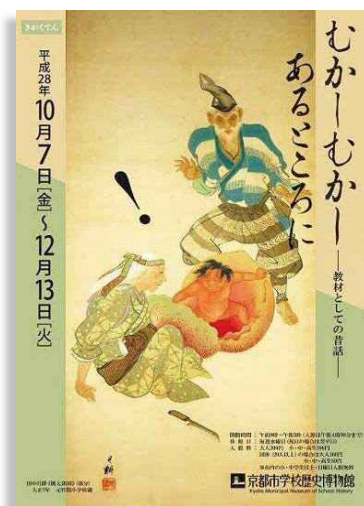
- ・ 解説講座「明治期絵画の題材としての昔話」 11月27日
森 光彦（当館学芸員）



「酒呑童子絵巻」(部分) 富有小学校



「舌切雀」寿山



「近代京都の商業学校・工業学校」

江戸時代の京都は、学問都市であるだけでなく、織物・染物・焼物などを生産する工業都市・商業都市としても発展しました。しかし、幕末の動乱と明治初期の奠都（てんと）で、大量の人口流出にみまわれます。近代京都の出発は、そこからの復興の始まりでもありました。

明治初期、番組小学校の創設など人づくりの力で京都は復興を果たし、その後の商業・工業の発展には目覚ましいものがありました。その発展を支えたのが、明治19（1886）年に誕生した京都府商業学校と京都染工講習所でした。これらの学校の歴史と伝統は、現在にも引き継がれています。

- ・ 講演会「明治の青年と学校」 3月11日
和崎 光太郎（当館学芸員）



分解・設計実習
大正14（1925）年頃 京都市立第一工業高校



軍事教練
大正11（1922）年 京都市立第一商業学校



校友会誌「華五」
昭和10（1935）年
京都市立第一工業学校

収蔵品展 「このひと どんなひと? — 学校を飾った人物画 —」

教室、廊下、体育館、講堂—京都の市立学校では、画家が描いた絵画作品が様々な場所を飾ってきました。中でも多いのは人物画です。子どもたちを描いたものや、先生の肖像画、教科書に登場する偉人の姿などがあり、どれもが豊かな表情で表されています。時代も明治から昭和まで幅広く、学校における人物画の変遷を感じることができます。

本展では、思わず「このひと どんなひと?」と聞きたくなるバラエティに富んだ人物画を、学校所蔵コレクションの中からご紹介しました。



「豊臣秀吉像」部分 板倉星光
豊園小学校



「山内一豊の妻」樋口富麻呂
錦林小学校

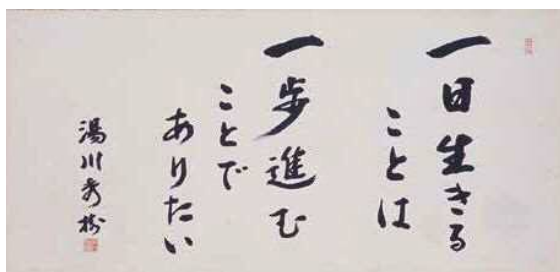


平成29(2017)年度

「学びやタイムスリップ — 京都の美術と学校 —」

京都の学校で所蔵されている芸術作品の質の高さや量の多さは、全国に類を見ません。この一大コレクションは画家や所蔵家の惜しめない寄贈によるもので、約150年にわたって学校をきらびやかに飾ってきました。また、それぞれの作品には、学校に寄贈された経緯や芸術家が込めた思いなど、学校文化財ならではの興味深いエピソードも伝えられています。本展では、市立学校が所蔵する美術品の中から名品を選びすぐり、それぞれの学校にまつわるエピソードと共にご紹介することで、近代京都の美術と、それらを受容する場として機能していた学校の歴史を振り返りました。

- ・解説講座「近代京都画壇と学区」 6月18日
森 光彦 (当館学芸員)



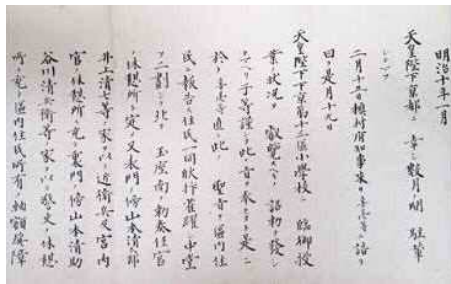
左：湯川秀樹の書 下鴨小学校
右：「魁星之図」富岡鉄斎
嵐山小学校



「京都番組小学校史入門 — 創設150周年へカウントダウン —」

明治2年に、全国に先駆けて合計64もの小学校が京都の中心部、現在の
上京区・下京区・東山区・左京区に誕生しました。

これらの小学校は、室町時代の町組をルーツとする「番組」を学区とした
ので、「番組小学校」と呼ばれています。番組小学校には「地域による、地
域のための学校」という特徴があり、学校建築資金の多くが番組内有志の寄
付で賄われ、学校運営資金には番組内で集められた「竈金（かまどきん）」
などが用いられました。このような学校運営のあり方は、その姿を少しずつ
変えながら、少なくとも昭和16年までは続きました。このような番組小学
校の歴史を学ぶための入門編が、この企画展です。



左：明治時代の卒業写真
明治28（1895）年 開智小学校
右：山階宮と閑院宮の臨校に際しての記録（部分）
明治10（1877）年 開智小学校

- ・講演会「幕末維新期の京都の教育」 7月9日 小林 丈広（同志社大学文学部教授）
- ・上映会「むかしの子どもを動画で見よう！」 7月29日
解説：濱口 十四郎（NPO法人京都の文化を映像で記録する会）・和崎 光太郎（当館学芸員）
- ・演奏会「明治の足踏みオルガンコンサート」 9月16日
演奏：大森 幹子・文屋 知明・鈴木 開（いずれも日本リードオルガン協会会員）
解説：和崎 光太郎（当館学芸員）
- ・講演会「明治時代の小学校」9月23日 和崎 光太郎（当館学芸員）

「学校と博物学」

日本において、植物・動物・鉱物などを研究する学問は、奈良時代に「本
草学」として中国から輸入され、江戸時代をピークとして発展してきました。
これらは明治時代になると、西洋の科学に基づいた「博物学」として新たに
体系化され、小学校の教育に採用されるようになります。身の回りの事物を
合理的に観察し、科学的に説明する博物学の考え方は、文明開化の風潮の中
で始まっていく近代教育を支えるものでした。

本展では、学校における博物学の教育に用いられた教材を展示。教科書や
標本、歴史資料、画家が手がけた博物図版などを通じて、学校における博物
学教育の変遷を振り返ります。



オオハシの剥製
清水小学校



博物図（複製）
明治6（1873）年 文部省

■ 「近代日本の道徳教育」

今から約150年前、明治時代になると、しだいに全国各地に小学校が設置されていきます。この、江戸時代にはなかった近代の産物である小学校の特徴は、国で統一されたカリキュラムによって、様々な教科を、一斉授業で教えることを目指したところにありました。当時はまだ「道徳」という科目はありませんでしたが、修身科が設置され、この修身科を中心にして道徳教育が行われました。

本展では、明治初期から第二次世界大戦期までの小学校における道徳教育のあゆみを、様々な史料を通して振り返ります。



アメリカ人形（青い目の人形）
昭和2（1927）年 当館



御真影拝戴式
昭和6（1931）年 当館



- ・ 上映会「小津安二郎の名作映画でむかしの子どもを見よう！」 2月24日
 弁士：遊花（NPO法人京都の文化を映像で記録する会 理事）
 解説：濱口 十四郎（NPO法人京都の文化を映像で記録する会 理事長）・和崎 光太郎（当館学芸員）
- ・ 講演会「近代日本の道徳教育」 3月3日・18日
 和崎 光太郎（当館学芸員）
- ・ 講演会「これからの道徳教育—いのちを問う—」 3月10日
 柴原 弘志（京都産業大学教授）

開館20周年記念誌 20年の彩り

発行日 2018年3月31日

編集 京都市学校歴史博物館

発行 京都市学校歴史博物館
〒600-8044
京都市下京区御幸町通仏光寺下る橘町437
TEL 075-344-1305
<http://kyo-gakurehaku.jp/>

印刷 株式会社 谷印刷所

©2018 Kyoto Municipal Museum of School History
本書のコピー、スキャン、デジタル化などの無断複製は著作権法
上での除外を除き禁じられています。